

脳の病気を疑って



うつ病は、こころの病気だ。脳の写真を撮っても意味がない、と思うかもしれない。が、**瓢箪**から駒。思いがけないこともある。

45歳のY子さん。約2カ月前から、元気がなく、忘れっぽくなつた。何もしたくない。会社へ行くのがつらい。近所の先生に診てもらったら、「うつ病」かもしれないという。抗うつ剤が処方され、一時は元気になったという。だが、仕事上のミスが目立つようになる。それで、ひよっとしたら**認知症**ではないか? ということになった。

もの忘れのテストでは、軽い記憶障害がみられる。もちろん、**認知症**ではない。が、うつ病で注意

経過がへんなうつ病

力や集中力が低下し、認知症もどきになる「**仮性認知症**」という病気はある。でも、Yさんの睡眠障害は軽度で、うつ病の典型的な経過とは違つようだ。そこで、ワッシーはまず、頭部MRI（**磁気共鳴画像装置**）の検査をしてみたのだ。その写真を見て、アッと驚いた。大脳の右側、真ん中に、こぶし大の悪性腫瘍が写っているではないか。それでいて、手足の麻痺もなければ頭痛さえない。だが、半年後、Yさんはその脳腫瘍がもてで亡くなった。

うつ病というのは、不安やストレスだけで起きるものではない。「**質性うつ病**」といって、**脳腫**

腫瘍や脳梗塞の可能性

瘍や脳梗塞などの脳の病気が原因で発病するものもある。20〜40%のひとがうつ病になるという統計もある。たいへんな病気をしたという精神的ショックも関係しているのだろう。

だが、頭の病気が見付かる前に、うつ病になるひとも稀ではない。どうしてかは分かっていないが、脳腫瘍などが前頭葉に作用し、意欲低下や集中力低下を起こし、うつ病に似た症状を出すこともある。うつ病でも、ことに、経過がちょっとへんという時は、脳の病気を疑ってみるべきだ。

（石黒修三 しいしぐさクリニック）
脳神経外科専門医、金沢市在住